

武蔵野



武蔵野支局 〒180-0006
 武蔵野市中町1の13の1 3F
 電話 0422(51)3131
 FAX 0422(51)3133
 musasino@yomiuri.com
 都内版編集室
 電話03(3217)1465・1466
 江東支局 電話03(3631)6116
 立川支局 電話042(523)4477
 ホームページ
 www.yomiuri.co.jp/local/

購読は
0120-4343-81

【広告】読売Palette
 03(6272)9027
 【折込チラシ】 0120-03-4343
 【読売旅行】 03(5550)0666

3月20日(土曜日)
 旧2月8日<先負>
 ★春分★
 通日 79
 月齢 6.7
 (正午)

■あすの暦

出	5.45	東京標準	7.44
日入	17.53	満潮	21.31
日出	9.27	干潮	1.54
日入	—		14.51

(小潮)

1927年(昭和2年)、与謝野寛・晶子夫妻は井荻村字下荻窪に転居します。関東大震災後に借り入れた土地で、11人の子どもたちのために順に家建て、最後に晶子の設計で夫妻の家を新築しました。

「都をば去りて三日へぬ寂しとは云はず病す井荻の村に」(27年)、「むさし野にありや無しやと思ひつる羽子の音こそ響き来にけれ」(28年)、「霧島にあれど子等あ

終の住処「君」を想い 文人の武蔵野

与謝野鉄幹・晶子夫妻 ⑤



旧井荻村の与謝野寛・晶子夫妻旧居跡に整備された与謝野公園(杉並区)

るむさし野の家を忘れず都を忘る」(29年)といった晶子の歌からは、井荻の家が「むさし野」であること、そこは

旧井荻村の与謝野寛・晶子夫妻旧居跡に整備された与謝野公園(杉並区)

35年3月、寛が逝去します。悲嘆に暮れた晶子は、「武蔵野の若葉の上に雪降りぬ何事ならず天悲しめり」、「都より下荻窪に移り来て十年歌へるむさし野に死ぬ」、「移り住み寂しとしたる武蔵野に

子どもたちの住む大切な場所であること、「都」(旧居の麹町)東京とも、故郷の堺(京都ともとれます)より「むさし野」が優先されていることがわかります。

終の住処を得た晶子と寛は、武蔵野への関心を高めま

す。30年には「武蔵野吟行」と称して深大寺に遊び、共に近傍を武蔵野と呼び歌にしています。寛の「防空に東京の方まぐるきを友いかに見ん武蔵野のはて」(34年作)には、首都を守る防空の要へと変貌する「武蔵野」の様子が垣間見られます。

一人ある日となりけるかな、「君が死の姿と見れど冬枯のまま武蔵野のあるにもあらず」等の武蔵野挽歌を歌います。やがて「武蔵野の家をば君と思ひたる日ならで一人わが思ふかな」と詠み、寛との思い出を想うことで生きていく境地に至ります。

(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)

おすすめの1冊

「鉄幹晶子全集」

本邦初の夫婦全集(全40巻)です。寛と晶子は、私小説のようにも詩歌を作りましたので、同じ場面を鏡像的に描いていることがあります。それらを切り取っても評伝的側面を覗いても面白いのですが、やはりいつかはこのような信頼できる全集を丸ごと読みたいものです。



(勉誠出版)